

老年看護学概論

対応 DP: I

履修年次: 1年次 後期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: 老い 加齢変化 発達課題 高齢社会 保健医療福祉

学習目的: ライフサイクルにおける老年期の位置づけを明確にしながら、対象を理解するための基礎的知識(加齢に伴う身体・精神・社会的変化や健康)と高齢者が生きてきた過程を踏まえその人を理解する大切さについて学ぶ。また、社会の動きをとらえ、老年期にある人の保健・医療・福祉における課題や老年看護の役割について考えることができるようにする。

到達目標: 1. 老いや高齢者の生きてきた生活背景から老年期を理解することができる
2. インスタントシニア体験から高齢者の日常生活を知り、関わりを考えることができる
3. 超高齢社会における社会保障の背景がわかる
4. 高齢者をとりまく倫理的問題について考えることができる

授業内容: 第1回 ライフサイクルにおける老年期:老いるということ
 第2回 高齢者と社会:統計から見えるもの
 第3・4回 加齢に伴う身体・精神・社会的変化①:インスタントシニア体験【演習】
 第5回 高齢者とのコミュニケーション
 第6・7回 地域で生活する高齢者の理解
 第8回 加齢に伴う身体・精神・社会的変化②:まとめ
 第9回 高齢者に関係する保健・医療・福祉の動向
 第10回 老年期を支える社会保障制度
 第11回 高齢者における倫理的問題
 第12回 高齢者の権利擁護と制度
 第13回 老年看護のなりたちと老年看護の役割
 第14回 高齢者との関わりについてのグループワーク
 第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院

参考図書: 国民衛生の動向 厚生労働統計協会

評価方法: 筆記試験 100点

老年看護援助論 I

対応 DP:3

履修年次: 2年次 前期 単位数: 2単位 時間数: 30時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)、外部講師

Keywords: 生活機能 日常生活援助 ヘルスアセスメント アクティビティケア 看護過程

学習目的: 加齢変化と高齢者に多い問題から老年期にある人の日常生活を理解する。さらに、その人の健康・これまでの生活史や生活習慣を理解し、高齢者の安全・安楽・QOL 向上のためのもっている力を活かした日常生活援助について学ぶ。

到達目標: 1. 加齢に伴う身体の変化や疾病をめぐる変化の特徴について理解できる
2. 老年期にある人の日常生活に焦点をあてた看護の視点がわかる
3. 事例を用いて老年期にある対象のもっている力を活かした日常生活援助がわかる

授業内容: 第1回 老年期の看護過程の展開と援助の実際
第2回 高齢者のフィジカルアセスメントと生活機能のアセスメント
第3・4回 活動と休息のアセスメントと援助
第5回 高齢者における移動・移乗介助(関節可動域訓練)【演習】
第6回 施設におけるアクティビティの実際①
第7回 施設におけるアクティビティの実際②
第8・9回 食事・食生活のアセスメントと援助 <<外部講師>>
第10回 嚥下機能が低下している高齢者の食事の援助と嚥下リハビリ【演習】
第11回 清潔のアセスメントと援助
第12回 高齢者の口腔ケア【演習】
第13回 排泄と脱水のアセスメントと援助
第14回 高齢者における排泄ケアの実際【演習】
第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院

参考図書: ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実際 株式会社メディカ出版

評価方法: 筆記試験 100点

老年看護援助論Ⅱ

対応 DP:4

履修年次: 2年次 後期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)、外部講師

Keywords: 認知症 慢性疾患 自立支援 エンドオブライフケア リスクマネジメント

学習目的: 超高齢社会を踏まえ、認知症をもつ高齢者の理解と看護を学ぶ。さらに、エンドオブライフケアの考え方を踏まえ、慢性の病気とともにその人らしく生きる高齢者の看護を学ぶ。また、老年期にある人をとりまく家族へも大きな影響を与えることを理解し、家族を含めた看護について考えられるようにする。

到達目標: 1. 認知症にある人の理解を深め、認知症看護について考えることができる
2. 慢性の病気と共に生きる高齢者と家族の看護について理解できる

授業内容: 第1回 認知症の高齢者の生活
第2・3回 認知症の看護に必要な治療・ケア・予防《外部講師》
第4回 認知症の高齢者・家族の理解 《外部講師》
第5回 認知症患者のアセスメント
第6回 施設における多職種連携①
第7回 施設における多職種連携②
第8・9回 慢性の病気とともに生きる高齢者と家族の看護
第10回 呼吸器疾患で治療が必要な患者のアセスメント
第11回 臥床患者のリネン交換と環境整備【演習】
第12回 呼吸機能を整えるための看護の実際:酸素療法の実際【演習】
第13回 呼吸器疾患をもつ高齢者の退院支援
第14回 高齢者のリスクマネジメント(医療安全・災害看護の視点から)
第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院

参考図書: ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実際 株式会社メディカ出版

評価方法: 筆記試験 100点

小児看護学概論

対応 DP: I

履修年次: 1 年次 後期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: 子ども 家族 子どもの権利 現代社会 成長・発達

学習目的: 小児看護の対象である子どもと家族を理解し、現代社会における子どもの存在について理解する。
子どもの権利をふまえた小児看護のあり方について理解する。
子どもの成長発達と生活について理解し、各期の特徴に適した養育と看護を学ぶ。

到達目標: 1. 小児看護の対象である子どもと家族を理解することができる
2. 子どもと家族の権利を保障し、成長・発達していく過程に応じた養育を理解できる
3. 現代社会における子どもと家族が抱える健康上の課題について考察できる

授業内容: 第1回 子どもとは
第2回 小児看護の特徴と理念
第3回 小児看護における倫理・法制度
第4回 子どもの成長発達
第5回 新生児・乳児期の成長発達と養育および看護①
第6回 新生児・乳児期の成長発達と養育および看護②
第7回 幼児期の成長発達と養育および看護①
第8回 幼児期の成長発達と養育および看護②
第9回 幼児期の成長発達と養育および看護③
第10回 学童期・思春期の成長発達と養育および看護
第11回 子どもと家族を取り巻く現代社会の特徴①
第12回 子どもと家族を取り巻く現代社会の特徴②
第13回 子どもの栄養
第14回 子どもとのコミュニケーション
第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1) 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

評価方法: 筆記試験 100 点

小児看護援助論 I

対応 DP:2

履修年次: 2年次 前期 単位数: 2単位 時間数: 30時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: インフォームドアセント プレパレーション ディストラクション 健康障害

学習目的: 子どもの健康障害とそれに伴う症状の原因や観察方法、対処方法を学ぶ。
さまざまな健康レベルにある子どもとその家族の状況をふまえ、看護援助を行うための基礎的な知識・技術・態度について学ぶ。

到達目標: 1. 子どもの病気や入院の体験が、子どもや家族に与える影響について理解できる
2. 健康障害を有する子どもと家族の特徴を理解し、看護の役割を理解できる
3. 子どもや家族の支援を行うために必要な知識・技術・態度を習得することができる

授業内容:

第1回	健康障害が子どもと家族に与える影響とその看護
第2回	おこりやすい事故への対応・感染予防と対処
第3回	外来における子どもと家族の看護
第4回	子どもの入院と看護①
第5回	子どもの入院と看護②
第6回	検査・処置を受ける子どもと家族の看護
第7回	子どものフィジカルアセスメント
第8回	急性期にある子どもと家族の看護①(入院から治療までの看護)
第9回	急性期にある子どもと家族の看護②(退院から在宅療養中の看護)
第10回	慢性期にある子どもと家族の看護①
第11回	慢性期にある子どもと家族の看護②
第12回	病気を持つ子どもの在宅移行支援
第13・14回	子どもの看護技術【演習】
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1) 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 小児看護学(2) 小児臨床看護各論 医学書院

評価方法: 筆記試験 100点

小児看護援助論Ⅱ

対応 DP:4

履修年次: 2年次 後期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)、外部講師

Keywords: 倫理 看護過程 子どもの意思決定支援(ACP)

学習目的: 病気や障害をもつ子どもの成長・発達を促進する視点や、多職種と連携して支援をおこなう看護の役割が理解できる。

到達目標: 1. 病気や障害をもつ子どもと家族に対する長期的な視点を持ち、継続看護について理解できる
2. 子どもとその家族の状況をふまえ、支援を行うための多職種連携や看護を考えることができる

授業内容:

第1回	手術を要する疾患をもつ子どもと家族への看護
第2回	長期的な支援を必要とする子どもと家族への看護①
第3回	長期的な支援を必要とする子どもと家族への看護②
第4回	長期的な支援を必要とする子どもと家族への看護③
第5回	小児がんの子どもと家族への看護
第6回	子どもと家族の緩和ケア《外部講師》
第7回	子どもと家族の看護①(情報整理)
第8回	子どもと家族の看護②(アセスメント~看護計画立案)
第9回	子どもと家族の看護③(アセスメント~看護計画立案)
第10回	子どもと家族の看護④(検討会・発表)
第11回	子どものバイタルサイン測定・検査介助【演習】
第12回	子どもと家族の看護⑤(遊びの援助・学習支援)
第13回	遊びの援助・学習支援発表【演習】
第14回	子どもと家族の看護⑥
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1) 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 小児看護学(2) 小児臨床看護各論 医学書院

評価方法: 筆記試験 100点

母性看護学概論

対応 DP: I

履修年次: 1 年次 後期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)、外部講師

Keywords: 母性 母性看護 リプロダクティブヘルス/ライツ ライフサイクル

学習目的: 母性の概念、リプロダクティブヘルス/ライツの理念と母性看護の対象及び看護の役割について学習する。母性看護の変遷や母子保健統計の動向など幅広い視点から母性看護の対象を統合的に理解し、ヘルスプロモーションのための基礎的知識を修得する。

到達目標: 1. 母性看護の基盤となる概念や理論、母性看護の目的や役割を理解する
2. セクシュアリティの発達を学び、多様な性のあり方と健康への支援について理解する
3. 母性看護の変遷や母子保健統計、法律や施策から母子を取り巻く現況や母性看護における役割や課題について理解する
4. ライフサイクル各期の特徴と健康支援、リプロダクティブヘルスケアについて理解する
5. 母性看護における生命の尊重や生命倫理について考えを深めることができる

授業内容: 第1回 母性看護の概念 リプロダクティブヘルス/ライツ
第2回 母性看護の対象・役割
第3回 セクシュアリティ
第4回 母性看護に関わる理論
第5回 母性看護変遷と現況 母子保健統計の動向
第6回 母性看護に関する法律および主な母子保健施策
第7回 地域における母子保健活動の実際 <<外部講師>>
第8回 女性のライフサイクルと健康① 性周期と女性のライフサイクル
第9回 女性のライフサイクルと健康② 思春期の特徴と看護
第10回 女性のライフサイクルと健康③ 成熟期の特徴と看護
第11回 女性のライフサイクルと健康④ 更年期の特徴と看護
第12回 リプロダクティブヘルスケア
第13回 不妊症・生殖医療
第14回 母性看護と生命倫理
第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 母性看護学(1) 母性看護学概論 医学書院
国民衛生の動向 厚生労働統計協会

参考図書: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学9 女性生殖器 医学書院

評価方法: 筆記試験 100 点

母性看護援助論 I

対応 DP:2

履修年次: 2 年次 前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)、外部講師

Keywords: 母性 妊娠 分娩 胎児

学習目的: 妊娠期・分娩期・胎児期の生理や正常な経過について学習し、妊産婦、胎児及びその家族へ看護を実践するための基礎的な知識を学習する。

到達目標:

1. 妊産婦の身体的変化、心理・社会的変化について理解する
2. 胎児の発育と生理について理解する
3. 対象や家族の新しい役割獲得に向けた支援(課題)について理解する
4. 妊産婦、胎児の健康の保持・増進に向けたセルフケア能力を高める援助を理解する

授業内容:

第1回	妊娠の生理および胎児の発育
第2回	妊娠の心理・社会的変化と看護
第3回	妊婦の健康診査
第4回	妊婦および家族への看護
第5回	妊婦健診の実際 妊産婦諸計測・レオポルド触診法、学習支援【演習】
第6回	妊婦健診の実際 妊産婦諸計測・レオポルド触診法、学習支援【演習】
第7回	ハイリスク妊娠と妊娠期の異常 <<外部講師>>
第8回	マイナートラブル、ハイリスク妊娠への看護
第9回	分娩の3要素
第10回	分娩の機序と経過
第11回	分娩期の心理・社会的特徴と看護
第12回	産婦及び家族への順調な分娩経過のための看護
第13回	分娩期の看護の実際【演習】
第14回	ハイリスク分娩と分娩期の異常 <<外部講師>>
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 母性看護学(2) 母性看護学各論 医学書院

参考図書: 写真でわかる母性看護学技術 インターメディカ
ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護技術 メディカ出版

評価方法: 筆記試験 100 点

母性看護援助論Ⅱ

対応 DP:4

履修年次: 2年次 後期 単位数: 2単位 時間数: 30時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: 母性 産褥 新生児 母親役割獲得 継続支援

学習目的: 産褥期・新生児期の生理や正常な経過について学習し、褥婦、新生児及びその家族へ看護を実践するための基礎的な知識を学習する。

到達目標:

1. 褥婦の身体的変化について理解し、復古促進のための援助について学ぶ
2. 褥婦・家族の心理・社会的変化について学習し、母親役割獲得や新たな家族関係の構築に向けた支援の必要性について理解する
3. ウェルネスの考え方をもち、対象のセルフケア能力を高め、退院後も母子及びその家族がより健康の維持・促進ができるための継続支援の必要性について理解する
4. 新生児の胎外生活適応過程について理解し、正常に経過するための援助を学ぶ

授業内容:

第1回	産褥の生理
第2回	褥婦の心理・社会的変化と看護
第3回	産褥早期における褥婦への援助
第4回	褥婦および家族へ退院に向けての援助
第5回	退院後の継続支援の実際
第6回	産褥期の看護過程の展開と援助の実際
第7回	褥婦の看護の実際 子宮復古・全身の観察・乳房の観察と援助【演習】
第8回	異常のみられる褥婦の看護
第9回	新生児の生理
第10回	胎外生活適応を促すための援助① 出生直後の新生児の看護
第11回	胎外生活適応を促すための援助② 出生後から退院時までの看護
第12回	新生児期の看護過程の展開と援助の実際
第13回	新生児のバイタルサイン測定・全身観察・沐浴【演習】
第14回	異常経過のみられる新生児の看護
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学(2) 母性看護学各論 医学書院

参考図書: 写真でわかる母性看護学技術 インターメディカ
ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護技術 メディカ出版
ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院

評価方法: 筆記試験 100点

精神看護学概論

対応 DP:2

履修年次: 1 年次 前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: こころの成長発達 ストレスと危機 コーピング 防衛機制 リエゾン精神看護

学習目的: 人のこころはどのような構造や機能があるのか、人のこころ(精神)について学ぶ。また、人のライフサイクルにおけるこころの成長発達と危機的状況に陥った時にどのようなこころの動きがあるかを理解し、自分自身や看護の対象となる人がより健康なこころを保持・増進していくための基礎的知識を学ぶ。更に、精神看護を実践していくための基礎となる援助的人間関係を築くための基礎的知識を学ぶ。

到達目標: 1. 精神看護学の目的、対象、看護師の役割などを理解することができる
2. こころの成長発達と取り巻く環境における危機的状況とその介入方法がわかる
3. こころと身体との関連、危機におけるこころの防衛機制がわかる
4. 精神看護を実践するための援助的人間関係とその発展過程がわかる

授業内容: 第1回 精神看護学とは
第2回 私たちの学ぶ精神・こころとは
第3回 乳児・幼児期のこころ
第4回 学童期のこころ
第5回 青年期のこころ①
第6回 青年期のこころ②
第7回 成人期のこころ①
第8回 成人期のこころ②
第9回 壮年期・老年期のこころ
第10回 健康なこころを保持・増進していくために
第11回 患者-看護師関係の理解
第12回 患者-看護師関係の発展過程
第13回 医療場面における危機的状況への介入
第14回 リエゾン精神看護
第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 精神看護学(1) 精神看護の基礎 医学書院
系統看護学講座 専門分野 精神看護学(2) 精神看護の展開 医学書院

参考図書: ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版
ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版

評価方法: 筆記試験 100 点

履修年次: 2年次 前期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: 精神障害 精神症状(思考・知覚障害等) 薬物療法 精神療法 人権擁護

学習目的: ころを病むとは、精神障害の捉え方を理解し、更には日本の精神障害者医療の歴史と関連する法律を学ぶ。主な精神症状の観察とアセスメントの視点など基礎的知識を学習し、演習を通してコミュニケーションを活用した治療的かかわりの実際を学ぶ。また、精神に障害のある人の各治療・日常生活における看護を学ぶ。

到達目標: 1. 精神障害の捉え方や精神障害者の歴史と関連する法律が理解できる
2. 主な精神症状の観察・アセスメントの視点と看護の方向性が理解できる
3. 精神に障害のある人への治療的かかわりを理解できる
4. 精神に障害のある人の各治療・日常生活における看護がわかる
5. 精神に障害のある人の人権擁護・事故防止の視点がわかる

授業内容: 第1回 こころを病むということ 精神障害の捉え方
第2回 精神障害者の歴史と背景
第3回 主な精神症状の観察とアセスメントの視点と看護の方向性①
第4回 主な精神症状の観察とアセスメントの視点と看護の方向性②
第5回 主な精神症状の観察とアセスメントの視点と看護の方向性③
第6回 主な精神症状の観察とアセスメントの視点と看護の方向性④
第7回 精神に障害のある人への治療的かかわり①
第8・9回 精神に障害のある人への治療的かかわり②③【演習】
第10回 精神に障害のある人への治療的かかわり④振り返り
第11回 精神に障害のある人の治療における看護①
第12回 精神に障害のある人の治療における看護②
第13回 精神に障害のある人の日常生活における看護
第14回 精神に障害のある人の人権擁護・事故防止
第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 精神看護学(1) 精神看護の基礎 医学書院
系統看護学講座 専門分野 精神看護学(2) 精神看護の展開 医学書院

参考図書: ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版
ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実際 メディカ出版

評価方法: 筆記試験 100点

精神看護援助論Ⅱ

対応 DP:4

履修年次: 2年次 後期 単位数: 2単位 時間数: 30時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)、外部講師

Keywords: 統合失調症 看護過程 気分障害 ストレス関連障害 依存症 地域精神保健

学習目的: 精神に障害のある人、及びその家族への看護の基礎的知識として、精神に障害のある人への必要な看護や援助方法を学ぶ。また、地域で生活する精神障害者の理解と支えるための法律や地域精神保健などのシステムを学ぶ。

到達目標:

1. 統合失調症のある人への看護が理解できる
2. 気分・神経症性・ストレス関連障害などのある人への看護が理解できる
3. 精神障害者を支える家族への看護がわかる
4. 地域で生活する精神障害者の理解とそれを支えるための法律やシステムがわかる

授業内容:

- 第1回 統合失調症のある人への看護
- 第2回 統合失調症のある人への看護過程の展開①
- 第3回 統合失調症のある人への看護過程の展開②
- 第4回 統合失調症のある人への看護過程の展開③
- 第5回 統合失調症のある人への看護過程の展開④
- 第6回 統合失調症のある人への看護過程の展開⑤
- 第7回 統合失調症のある人への看護過程の展開⑥
- 第8回 気分障害のある人への看護
- 第9回 神経症・ストレス関連障害のある人への看護
- 第10回 パーソナリティ障害のある人への看護
- 第11回 依存症のある人への看護
- 第12回 精神障害者を支える家族への看護
- 第13回 地域で生活する精神障害者の理解
- 第14回 地域における精神障害者を支えるシステム《外部講師》
- 第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 精神看護学(1) 精神看護の基礎 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 精神看護学(2) 精神看護の展開 医学書院

参考図書: ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版
 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版

評価方法: 筆記試験 100点

災害看護

対応 DP:4

履修年次: 2年次後期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)、外部講師

Keywords: 災害サイクル 防災 こころのケア 連携

学習目的: 被災地での人々の生命と生活を守るための基本的知識と連携について学ぶ

到達目標:

1. 災害、災害看護の基本的知識を理解し、姿勢、役割について考えることができる
2. 災害各期における人々の生活に及ぼす影響を理解できる
3. トリアージ・救護所・避難所における看護や連携が理解できる
4. 災害がもたらす精神的影響とそのケアについて考えることができる

授業内容:

第1回	災害とは
第2回	災害看護とは
第3回	地域による防災への取り組み①
第4回	地域による防災への取り組み②
第5回	災害における連携と対策<<外部講師>>
第6回	超急性期～亜急性期における災害看護<<外部講師>>
第7回	亜急性期～慢性期における災害看護<<外部講師>>
第8回	慢性期～静穏期における災害看護<<外部講師>>
第9回	災害チームにおけるストレスマネジメント<<外部講師>>
第10・11回	トリアージ・救護所における看護の実際【演習】<<外部講師>>
第12・13回	避難所における看護の実際【演習】<<外部講師>>
第14回	こころのケア
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(3) 災害看護学・国際看護学 医学書院

評価方法: レポート 100点

医療安全

対応 DP:5

履修年次: 2年次 後期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)、外部講師

Keywords: 医療安全 ヒューマンエラー 医療事故 看護事故 KYT 看護師の責務

学習目的: 医療安全に向けた組織全体の取り組みが理解でき、専門職業人として、安全を考慮した看護実践の必要性が理解できる。

- 到達目標:
1. 医療安全の基本となる考え方を理解できる
 2. 医療安全における看護師の役割・責任について理解できる
 3. 看護における医療安全の取り組み、医療事故予防について理解できる
 4. 組織としての医療安全対策について学ぶ
 5. リスク感性を養う
 6. 事故防止の視点からどのような知識・技術が必要か理解できる

- 授業内容:
- | | |
|---------|-------------------------------|
| 第1回 | 医療安全を学ぶ意義、ヒューマンエラー、看護師の責務 |
| 第2回 | 医療事故の構造、看護事故防止の考え方、重大事故発生時の対応 |
| 第3回 | 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因、多重課題 |
| 第4回 | 医療安全とコミュニケーション |
| 第5回 | 組織としての医療安全対策、安全文化の醸成 |
| 第6回 | 組織的な安全管理体制への取り組みの実際<<外部講師>> |
| 第7回 | 事故分析<<外部講師>> |
| 第8回 | KYTの理論<<外部講師>> |
| 第9回 | KYTの実際(GW)<<外部講師>> |
| 第10回 | KYTの実際(GW、まとめ)<<外部講師>> |
| 第11・12回 | 診療の補助の事故防止、注射業務と事故防止【演習】 |
| 第13・14回 | 療養上の世話の事故防止、転倒・転落【演習】 |
| 第15回 | まとめ・評価 |

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(2) 医療安全 医学書院

参考図書: ナーシング・グラフィカ 医療安全 メディカ出版
医療におけるヒューマンエラー 医学書院

評価方法: 筆記試験 100点

看護管理

対応 DP:5

履修年次: 3年次 前期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)、外部講師

Keywords: 看護管理 ヘルスケアシステム マネジメント 看護職のキャリア 人材育成

学習目的: 質の高い医療・看護を提供するために、マネジメントに必要な要素を理解する。多様化、複雑化する社会において、ヘルスケアシステム、制度・政策、組織運営に影響する要素を探索する。専門職業人としての生涯教育の必要性と自分自身の将来展望を探求することができる。世界における保健医療問題を国際的視野で概観し、国際協力の必要性と国際看護活動について学び看護の役割と展望について考える。

到達目標: 1. 看護管理の概念・基礎的理論を理解する
2. 看護サービス及びその質のマネジメントに関する諸概念を理解する
4. 看護を提供する組織における人的資源とそのマネジメントの方法について理解する
5. 医療・看護を担う専門職としての自己の役割について考察する
6. 世界の健康問題、保健医療問題の現状、看護における国際協力について理解する
7. 世界の感染症動向と国際保健における感染症対策の重要性とその実際を理解する
8. 看護の国際貢献の現状と課題について理解する

授業内容: 第1回 看護管理の概念・基礎的理論(看護管理と組織、看護を取り巻く諸制度)
【看護管理】 第2回 看護管理の概念・基礎的理論(多職種協働に必要な組織マネジメント)
第3回 看護管理とヘルスケアシステム①(医療に関わる法や制度、診療報酬・介護報酬)
第4回 看護管理とヘルスケアシステム②(医療に関わる法や制度、診療報酬・介護報酬)
第5回 看護サービスのマネジメント①(組織論、リーダーシップ、マネジメント)
第6回 看護サービスのマネジメント②(倫理的問題と倫理課題に対する組織対応)
第7回 看護サービスのマネジメント③(感染症対策における組織管理) <<外部講師>>
第8回 看護サービスのマネジメント④(トップマネージャーによる組織マネジメント) <<外部講師>>
第9回 看護管理の実際①看護職のキャリア形成と人材育成
第10回 看護管理の実際②情報の活用と管理、質保証とリスクマネジメント
【国際看護】 第11回 国際社会の現状と国際看護活動 <<外部講師>>
第12回 国際看護の基本と異文化理解 <<外部講師>>
第13回 世界の感染症の動向と国際保健における感染対策 <<外部講師>>
第14回 国際協力と国際看護活動(国際協力の現状と実践活動) <<外部講師>>
第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(1) 看護管理 医学書院
系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(3) 災害看護学・国際看護学 医学書院

評価方法: 筆記試験(看護管理 70点 国際看護 30点)

看護の統合演習

対応 DP:3

履修年次: 3年次 後期 単位数: 1単位 時間数: 15時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: 統合演習 臨床判断能力 看護実践能力 シミュレーション

学習目的: これまで学習した知識や技術を統合し、対象の状態を的確に判断する能力を養う。

到達目標: 1. 限られた情報・時間の中で、対象に必要な観察が実施できる
2. 観察を通して得た情報から対象の状況に応じた看護を考えることができる

授業内容: 第1・2回 臨床判断能力とは シミュレーション事前学習
第3・4・5・6回 事例を活用したシミュレーション【演習】
・実践は個人で実施し、交代する
・その場で観察、アセスメントし、判断したことから必要な援助を考え、実施する
・その時の判断、必要な看護をグループでディスカッションしながら考えていく
第7回 グループ発表
第8回 評価

評価方法: レポート 100点